

絹の道職場長会議連絡表

令和 7年 9月3日(水)

部署名		記入者	栗原 利政	
-----	--	-----	-------	--

項目	内容
連 絡	【業務分担の見直しに関する意向調査の実施について】 今年、法人は30周年を迎えます、これもひとえに、現場で日々奮闘してくださっている職員の皆さまのおかげで、特に長年従事している職員の豊かな経験と知識が、法人の成長を支えてきました、 その一方で、特別養護老人ホームなどの現場では職員の高齢化が進み、特養では平均年齢が50歳を超えるなど、新たな課題にも直面しています、 もちろん、年齢を重ねても豊富な経験と知識により、高い専門性を発揮されている職員も多くいますが、ただ、介護の現場は日々の業務に一定以上の体力を要することもあり、年齢に伴って以下のような影響が徐々に見られるようになってきています、 ○平均年齢を上回る職員への影響 ・移乗や入浴介助、夜勤など身体的負荷の高い業務を継続することによる疲労の蓄積 ・腰痛や関節痛、体力低下など健康面への不安 ・「若い頃のように動けないこと」への葛藤や心理的負担 ○他の職員への影響 ・体力的に厳しい業務を周囲の職員がカバーすることで、一部の職員への業務の偏りが発生 ・人員のやりくりが困難となり、勤務シフトへの影響や業務効率の低下 ○ご利用者への影響 ・業務の負担により職員のパフォーマンスが安定しないことで、介護の質や対応のばらつきが発生 ・一部業務が遅延し、利用者の生活リズムや満足度に影響を与える可能性、等々 上記はあくまで一例であってこのような現状を踏まえ、法人としては、職員一人ひとりが無理なく働き続けられる職場環境づくりを目指し、業務の分担・役割の見直しについて検討を進めていく段階にきています、例えば、身体的負担の大きい業務(移乗・オムツ交換・入浴介助等)は比較的若い職員が担い、ベテラン職員には、水分補給や口腔ケア、吸引、経管準備・片付け、記録業務、ショートステイ入退所対応、行事や委員会活動、新人・外国人指導など、身体への負担が少なく、かつ経験が活かせる業務を中心に担ってもらうなど、まずは対象になる職員の意見や希望を把握するのに意向調査を実施します、踏まえて、今後の働き方が少しでも負担なく、長く安心して勤務していけるよう、この意向調査もとに方針を検討していこうと思っておりますので趣旨を理解して協力して頂けたらと思います、
周 知	【長引く猛暑と新型コロナウイルス感染症の流行に伴う体調管理・感染対策】 今年は9月に入ってもなお、全国的に記録的な猛暑が続いますが、このような長期にわたる高温状態は体に知らず知らずのうちに疲労を蓄積させ、回復が追いつかないという傾向もあり、特に高温下での勤務が続くと体調への影響が懸念されます、軽い症状でも無理をせず、早めの休養・水分補給・栄養補給を心がけ、体調管理に十分留意して下さい、 さらにこのような気候条件のなか、全国的に新型コロナウイルス(オミクロン株派生型「ニンバス株」)の感染が再拡大しているといった報道もあり、高齢者施設においてもクラスターの発生が複数報告されているそうなので、再度、感染防止対策の徹底が求められる状況です、 今回の「ニンバス株」は、これまでの株よりも感染力が強いとされており、非常に高い感染効率(より短時間の接触で感染しやすい)で、喉の強い痛み(「カミソリで切られるような痛み」と表現されることも)、高熱が出やすい(38度以上の発熱が多い)との事、 猛暑による疲労の蓄積と、感染症拡大という二重のリスクが重なる今だからこそ、職員一人ひとりの体調と感染予防に対する意識が、施設全体の安全と、ご利用者の安心につながりますので、無理せず体調に不安がある場合には早めに所属長に相談するようにお願いします

